

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻

博士課程 3 年次生

Y.N

1. はじめに

この度、国際交流基金による助成を受け、2026 年 6 月 25 日から 2 日間にわたりタイ（バンコク）で開催された 9th International Conference and Exhibition on Pharmaceutical Sciences and Technology (PST2026) へ参加し、自身の研究成果を発表したので報告する。

2. 学会について

PST2026 は、「Sustainable Development in Pharmaceutical Sciences and Technology (薬学・製薬技術における持続可能な発展)」をテーマとして開催され、世界各国から薬学・製薬分野の研究者が集い、最新の研究成果や知見について活発な議論が行われた。学会は、①Product Development and Drug Delivery (製品開発・ドラッグデリバリー)、②Pharmaceutical Chemistry and Pharmacognosy (医薬品化学・生薬学)、③Biopharmaceutics, Pharmacology, and Toxicology (生物薬剤学・薬理学・毒性学)、④Miscellaneous (その他) の 4 つのセッションで構成されていた。会場は Ambassador Hotel in Bangkok で、Srinakharinwirot 大学の主催により開催された。

3. 学会の様子

本学会では、招待講演、口頭発表、ポスター発表が行われ、各セッションにおいて活発な議論が交わされていた。私は“Design of Supraparticles Based on Amorphous Nanoparticle with Morphology Control by Polymer Addition for DPI Formulations”のタイトルで口頭発表を行った。また、招待講演では当研究室の戸塚裕一教授が講演を行い、ポスター発表では同行した同研究室の 6 年次生が研究成果を発表した。

口頭発表は発表 12 分+質疑応答 3 分という限られた時間で行われたが、各発表では多くの質問や意見が寄せられ、研究内容だけでなく実験手法や今後の展望について活発な議論が交わされていた。海外の研究者との議論を通じて、多様な視点から研究を考える貴重な機会となった。

私自身も発表前は緊張していたが、研究室内で繰り返し発表練習を行い、原稿を十分に準備していたこともあり、本番では落



発表時の様子（口頭発表）

ち着いて発表することができた。一方、質疑応答では、質問者の意図を正確に聞き取ることができず、十分な回答ができない場面もあった。国内学会とは異なり、国際学会では質問内容を正確に理解し、自身の考えを英語で論理的に伝える力が求められることを実感し、英語によるコミュニケーション能力の重要性を改めて認識した。まだまだ、拙い英語ではあったかもしれないが、自身の考えを最後まで伝えようと努めた結果、研究内容を評価していただき、口頭発表部門において“Platinum Award”を受賞することができた。これまで積み重ねてきた研究と発表準備の成果が評価されたことを大変嬉しく感じるとともに、今後も国際学会で積極的に研究成果を発信できる研究者を目指したいと思った。

また、学会会場では企業展示も充実しており、分析機器や研究機器、試薬メーカーなど多数の企業がブースを出展していた。展示ブースでは最新の分析機器や研究機器について説明を受け、研究活動に関する知識を深めることができた。さらに、企業展示と連動したスタンプラリーが開催され、参加者同士が自然に交流できる工夫も見られた。会期中には、他大学の学生や海外の研究者、研究室に興味を持ってくださった先生方と交流する機会にも恵まれた。研究内容について意見交換を行うだけでなく、それぞれの研究分野や研究環境について話を聞くことで、自身の視野を広げることができた。



スタンプラリー抽選会



授賞式



賞状

4. タイについて

バンコク市内では、BTS(スカイトレイン)が整備されており、主要な商業施設や観光地へ容易にアクセスすることができた。一方、移動には配車サービスのGrabも広く利用されており、アプリ上で配車から決済まで完結できるため、短距離の移動にも便利であった。しかし、朝夕の通勤時間帯には交通渋滞が非常に激しく、目的地までの移動に予想以上の時間を要することもあった。そのため、時間に余裕がない場合はBTSを利用することで比較的スムーズに移動することができた。

訪れた時期がタイの雨季に当たっていたこともあり、気候は高温多湿で、日中は35℃前後まで気温が上昇した。一方、スコールのような激しい雨が短時間降り、その後再び晴れるという熱帯特有の天候も経験した。通貨はタイバーツ(THB)で、滞在時のレートは1THB=約4.9円であった。物価は日本よりやや安く、屋台やフードコートでは手頃な価格で本格

的なタイ料理を楽しむことができた。また、夜にはナイトマーケットが各地で開かれ、多くの人々で賑わい、タイならではの食文化や生活文化を体験することができた。

今回の滞在を通じて、タイは交通インフラやデジタル決済が発展する一方で、屋台文化やナイトマーケットなど地域に根付いた生活様式も色濃く残る国であり、研究活動だけでなく異文化への理解を深める貴重な機会となった。



ナイトマーケット



街の様子



マンゴスチン

5. 終わりに

国際交流基金の助成により PST2026 に参加し、口頭発表を行うとともに、“Platinum Award” を受賞するという大変貴重な経験を得ることができた。今回の発表を通じ、日頃から研究活動に励み、十分な準備を重ねることで、海外大学にも劣らない発表が可能であることを実感した。また、日本とは異なる文化や宗教に触れ、タイ文化の魅力を感じるとともに、日本の良さも再認識する機会となった。多くの研究者との交流や議論を通じて、自身の研究意欲と語学学習への意欲が一層高まった。今回の国際交流基金による助成制度は、学生が海外で研究成果を発表する上で非常に有意義な支援制度であると感じた。

最後に、このような機会を与えてくださった戸塚裕一教授をはじめ、研究室の先生方、Srinakharinwirot 大学の先生方、およびご支援いただいた多くの方々に心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。



Wat Pho



タイ料理